

令和7年度 社会福祉法人 三彩の里

令和7年度社会福祉法人 三彩の里 本部 事業報告

事業名	開催日	場所	人数	内容
1. 会務の運営				
(1) 監査	7年 6.02	会議室	4	1. 令和6年度事業執行状況・会計について
(2) 理事会 (第1回)	7年 6.07	会議室	7	1. 令和6年度事業報告について 2. 令和6年度収支決算について 3. 評議員選任・解任委員の選任の件 4. 評議員選任の件 5. 定時評議員会招集 6. 就業規則一部改正の件 報告事項；監事監査報告
(第2回)	8年 3.21	会議室	6	1. 令和7年度補正予算について 2. 令和8年度事業計画について 3. 令和8年度三彩の里会計当初予算について 4. 三彩の里職員の旅費に関する規則一部改正の件 5. 廃止事業（グループホームカサ・ロッサ）に係る資産等の引き継ぎの件 報告事項；大村市福祉総務課福祉サービス適正化推進室による社会福祉法人指導監査の結果について（令和7年9月17日実施）
(4) 評議員会 (第1回)	7年 6.27	会議室	7	1. 令和6年度社会福祉法人三彩の里会計決算承認の件 2. 理事・監事の選任の件 報告事項 ① 監事監査報告 ② 令和6年度事業報告について ③ 社会福祉充実計画について
2. 研修会・ 委員会等への 参加	7年 5.3～6 5.14	大村市 長崎市		三彩の里陶器まつり 長崎県共同受注センター理事会。総会

5.15.	大村市	大村市自立支援協議会
6.3	長崎市	長崎県身体障害児者協研修会
6.4	大村市	優先調達説明会
6.4	大村市	評議員選任委員会
6.9	長崎市	長崎県 Selp 協代表者会
6.16	長崎市	長崎県経営者協議会総会
6.21	大村市	陶芸教室コンクール表彰式
6.26	WEB	日本セルフセンター総会
7.17~18	大阪市	全国 SELP 総合研究大会
8.6	大村市	大村市障害者未来デザイン相談会
8.18	雲仙市	陶芸課施設外研修（ビードロ美術館）
8.26	長崎市	長崎県経営者協議会前期セミナー
9.25~26	那覇市	身障協九州大会
10.30~31	佐賀市	九州 Selp 研究大会
11.2	大村市	健康福祉まつり表彰式
11.11~12	熊本市	B 型利用者研修旅行
12.9	長崎市	身障協研修会
12.16	長崎市	長崎県 Selp 協代表者会
2.13	長崎市	長崎県経営者協議会後期セミナー
2.26~27	東京都	全国社会就労センター長研修会
3.7	三彩の里	地域連携推進会議
3.11	高野山	検校執行法印転衣式
3.12	大村市	大村市自立支援協議会
3.16	長崎市	長崎県 Selp 協代表者会

令和7年度 就労継続支援B型事業報告

令和7年度は、地域イベントへの出店や出張陶芸教室、除草作業など、施設外での活動機会を積極的に拡大した。その結果、地域との交流促進に繋がるとともに、売上向上に結び付いている。

一方で原材料費や水光熱費の高騰が継続しており、各課の収益を圧迫する厳しい状況が続いた。その為、原価計算の見直しや適正価格への改定を実施し、安定した事業運営に取り組んだ。

工賃については、目標工賃（平均月額 31,250 円）を達成したが、継続的な工賃向上を実現するためには、さらなる収益確保と利益向上が重要であり、工賃評価表についても工賃向上計画に沿った内容へ見直しを進める必要があるなど今後の課題も明確となった。

利用者支援においては、個別支援計画書に基づいた指導・支援を実施するとともに、担当者会議では利用者本人の参加を積極的に促し、本人の意向や希望を反映した体制づくりに努めた。また、利用者主体の視点を大切にしながら、より実効性の高い計画書作成と支援の充実を図った。

1. 個別支援計画に沿った支援の充実

各利用者の個別支援計画に基づいて、本人の参加と定期的に相談支援事業所も含めた会議を持ち、計画に沿った的確な支援を行えるよう努め、モニタリングやサービス担当者会議の実施。

また支援日誌や朝礼日誌の情報を職員で共有し、全職員が共通して利用者の生活面や健康面、作業中の問題などに対して認識して、利用者支援が出来るよう努めた。

2. 工賃向上計画について

事業所総支給額 目標工賃 31,250 円/月額

平均工賃月額算出の計算式

年間延べ利用者数 ÷ 年間開所日数 = 平均利用者数

工賃支払総額 ÷ 平均利用者数 ÷ 年間開所月数 = 平均工賃月額

平均工賃月額と時給額

平均工賃月額				平均工賃時給額		
工賃総支給額	平均利用人数 (1日)	開所月数	平均工賃月額	総支給額	就労時間	平均時給額
7,944,065	20.4	12	32,451	7,944,065	39,381	201.7

各課別平均工賃

課	平均工賃月額			
	工賃総支給額	平均利用人数（1日）	開所月数	平均工賃月額
食品	1,609,927	4.5	12	29,813
陶芸	1,804,666	4.3	12	34,974
軽作業	4,529,472	11.7	12	32,261

※R6年度 全国平均工賃 24,141 円/長崎県平均工賃 26,029 円

3. 各課別事業報告について

[陶芸課]

令和7年度は、大村市、長崎県から三彩焼を記念品として使用して頂いた。5月には陶器まつりを実施し、6月には陶芸教室コンクール表彰式を執り行い、毎年12月には三彩焼きの干支の置物の販売を行っている。

干支の置物については、大村市役所の玄関の特産品コーナーに展示され、陶芸教室に関してはホームページ、インターネットからの問い合わせが増えてきており、個人のお客様や団体予約等も多くなってきている。また、出張陶芸教室の依頼も増えてきており、陶芸の認知や地域の交流に繋がっている。

陶器の外部販売では職員の増員に伴い担当者を固定し、商品管理や販売計画を継続的に行えるようにし、製造面に関しては作業の分担・見直しを行い効率化に繋がった。

利用者支援について、利用者の性格や特性、利用者本人の意向に合った作業内容や作業環境等について職員で話し合い支援計画に基づき支援を行った。

8月には陶芸課の利用者6名と職員3名で雲仙ビードロ美術館に施設外研修に行い、陶芸以外の美術作品に触れ、日頃の作品づくりに活かせるようなヒントを得たり、施設外での食事や買い物を通して社会との関りを持つ良い機会となった。

〈年間行事報告〉

月	日	曜日	行 事 内 容	項目
5	3～6	金～日	陶器まつり（4日間）	販売
6	21	土	陶芸教室コンクール表彰式	販売
6	25～27	水～金	観光通り販売	販売
6	29	日	ハートパルまつり出店	
8	18	月	陶芸課利用者施設外研修(ビードロ美術館)	研修
9	14	日	長崎ピース文化祭【ピースピース工場販売】	販売
10	6	月	陶芸講座 長崎リハビリテーション学院	講習
10	12～13	日～月	三彩の里 彩フェスタ(2日間)	販売
10	12	日	琴平999HANA フェス	販売
10	20	月	陶芸講座 長崎リハビリテーション学院	講習
11	2	日	産直松吉5周年イベント販売	販売
11	10	月	陶芸講座 長崎リハビリテーション学院	講習
11	12	水	出張陶芸教室(竹松小学校)	講習
11	18～21	火～金	農福連携マルシェ (かもめ広場)	販売
11	25～27	火～木	観光通り販売	販売
11	30	日	出張陶芸教室(長崎大学経済学部・高井ゼミ主催)	講習
12	3	水	出張陶芸教室(諫早市立真津山小学校 保護者主催)	講習
12	8	月	陶芸講座 長崎リハビリテーション学院	講習
3	24～26	水～金	観光通り販売	販売

※その他、オレンジクローバー等に定期的に出店した。



陶芸教室コンクール表彰式



施設外研修(ビードロ美術館)

[食品加工課 パン工房ボンヌ]

令和7年度は、地域および行政主催のイベントへ積極的に出店し、利用者とともに販売活動へ参加することで、地域交流の促進と利用者の社会参加支援に努めた。販売現場では接客や商品説明など実践的な経験を重ね、自信や意欲向上に繋がっている。

商品開発においては、既存のパン生地を活用しながら二次加工に工夫を加えることで、1つの生地から多様な商品展開を実現した。製造効率の向上と商品バリエーション拡充を図り、利用者の機会拡大にも繋げた。

一方で、原材料費や光熱費の高騰が継続する厳しい状況ではあるが、原価計算や販売価格の見直しを行い、安定した運営に向けた改善と工夫に取り組んだ。

また、ホームページやSNSを活用した情報発信を積極的に行い、新商品の紹介や販売情報を積極的に発信することで、認知度向上と売上拡大に努めた。

利用者支援においては、個別支援計画書作成時に本人への丁寧な説明と提案を行い、一人ひとりの希望や目標に沿った支援を心掛け、利用者が安心して意欲的にできる環境づくりを行った。

〈年間行事報告〉

月	日	曜日	行 事 名	内容
4	6	日	アロマショップオリーブ半日	販売
4	17	木	オレンジクローバー販売	販売
5	3-6	土-火	三彩の里 陶器まつり (4日間)	販売
6	25-27	水-金	ふれあい観光通り販売 (3日間)	販売
6	29	土	ハートパルまつり販売	販売
7	16	水	岩田産業フードフェア見学	研修
7	17	木	オレンジクローバー販売	販売
9	14-15	日 - 月	ピースピース文化祭販売会	販売
10	12-13	日-月	三彩の里 彩フェスタ (2日間)	販売
11	18-21	火-金	ナイスハートバザール(4日間)	販売
11	25-28	火-木	ふれあい観光通り販売 (3日間)	販売
1	24	土	パン販売 (カフェ)	販売
2	14	土	パン販売 (カフェ)	販売
3	14	土	パン販売 (カフェ)	販売
3	24-26	火-木	ふれあい観光通り販売 (3日間)	販売



岩田産業フードフェア



ハートパルまつり



彩フェスタ

[カフェボンヌ]

令和7年より業務内容の見直しを行い、9月よりパン販売及び飲料提供を中心とした営業体制に移行した。

しかし、パン販売のみでは従来のカフェ利用者の減少がみられ、売上げの多くを既存利用者が占める状況となった。

そこで、新たな来客促進を目的として、1~3月にかけてイベントをカフェで実施した。効果として、イベント時は一定の集客効果が見られたものの、新規利用者の開拓には十分につなげることが出来なかった。

今後については、カフェとしての再開を視野にいれながら、地域ニーズや利用者状況を踏まえた店舗運営の在り方について継続的に検討を進めていく。

また、利用者支援においては、清掃活動やパン販売準備、ラスク製造作業などの作業指導を行うとともに、生活面における相談・支援も実施している。

[軽食ターンマーク]

令和7年度は、店舗外での活動にも積極的に取り組み、6月に大村市で開催された「ハートパルまつり」へ出張出店を行った。会場では、ターンマークで提供しているうどん・カレー・天ぷら等の販売を実施し、多くの来場者に店舗の取り組みや商品を知って頂ける機会となった。

また、競艇企業局のイベントへ参加し、舟券購入者を対象にターンマーク特製のカレーを提供し、日頃利用されているお客様以外にも幅広い方に利用して頂き、新規利用者への周知や地域交流に繋がる取り組みとなった。

一方で、原材料費や光熱費の高騰は依然として続いており、安定した運営を維持するため、メニュー内容や提供方法の見直しを行った。経費管理と品質維持の両立を図りながら、継続的な運営改善に取り組んでいる。

利用者支援においては、接客・調理・調理補助・清掃など、店舗運営に必要な幅広い作業に取り組めるよう指導・支援を実施した。それぞれの利用者の特性や習熟度に応じた支援を行い、就労に必要な技能向上と自立支援に繋げている。

[軽作業課]

施設内の作業は、野菜受託加工作業（野菜の計量、結束、箱詰め、計量の確認作業）の指導を中心に行った。施設外の清掃業務は中心市街地複合ビル、ハイテク記念公園等の清掃指導を行った。利用者の作業技術の向上等の評価から7名の利用者の工賃アップを達成することができた。R7年度は共同受注センターより新規の除草作業、大村市より新規の除草作業や側溝清掃作業を受注したことで売上げ増となった。年々夏場の気温の上昇や、残暑の期間が長くなってきていることから、特に熱中症等の対策を徹底し、可能な限り利用者が安全に作業を行えるよう努めた。

(施設外作業別の回数と出席回数)

ハイテク記念公園清掃

清掃回数 月 10 回 年 120 回 参加利用者数 6 名

内 容 駐車場・広場の掃き清掃、公衆トイレ清掃、月 1 回の除草作業

中心市街地複合ビル清掃 (通常清掃)

清掃日数 月曜～金曜(祝日含む)12月31日、1月1日を除く年 259 回、参加利用者数 6 名

内 容 1階 玄関、エントランス、ロビー、廊下、給湯室、階段喫煙所

2階 廊下、給湯室、階段

5階 廊下、給湯室、階段、会議室 3 部屋、和室

6階 廊下、給湯室、階段、会議室 4 部屋、和室 2 部屋、講座室 2 部屋、活動室

中心市街地複合ビル特別清掃 (ワックス剥離、ワックスがけ) 9 月～12 月

内 容 1階 廊下

2階 廊下

3階 廊下、相談室 5 部屋、スタッフルーム

4階 廊下、大会議室、相談室 3 部屋、サークルルーム、ボランティアルーム
講座室、ライブラリー室

5階 廊下、中会議室、会議室、小会議室

6階 廊下、小会議室 4 部屋、講座室、活動室

除草作業

作業期間		曜日	発注元	作業日数	延人数	
月	日				職員	利用者
5	20~29	月~金	大村市新幹線まちづくり課	9	5	14
6	23~27	月~金	大村市環境センター	4	6	13
7	1~17	月~金	長崎県学芸文化課	12	22	52
7	5・24~25	土・木・金	長崎労働局	3	5	14
7	19・24・8/2	土・木・金	大村市環境センター	3	6	17
8	1~20	月~金	大村市新幹線まちづくり課	7	8	10
9	3・16	水・火	大村市企業誘致課	2	4	8
9	19~26	月~金	大村市新幹線まちづくり課	4	6	16
9	29・10/6~23	月~金	大村市都市計画課	8	14	39
11	4~7	火~金	大村市環境センター	4	4	8
11	14~28	月~金	長崎県学芸文化課	10	17	46
12	1~8	月~金	長崎県立大村高校	6	11	31
12	9~11	火~木	大村市新幹線まちづくり課	3	5	17
1	16	金	長崎県地域環境課	1	2	2
1	27	火	大村市農林水産課	1	2	5
1	30・2/2~18	月~金	大村市企業誘致課	7	7	15
3	9~13	月~金	鎮西学院大学大村サテライト	5	8	8
3	16・17・19・21	月・火・木・土	長崎労働局	4	6	19
3	23・24・26・27	月火木金	大村市環境センター	4	6	18



「ハイテク記念公園清掃」



「新幹線除草作業」

4. 生活支援について

令和7年度も利用者の居室管理を生活支援員と利用者自身にもチェックをしてもらい、整理整頓に対する意識の向上を図った。また、コロナによって中止してきた行事も徐々に再開し、様々な施設行事を行った。

〈年間行事報告〉

月	日	曜日	行 事 内 容	項目
4	2	水	花見散策（雄ヶ原展望公園）	行事
5	3-6	土-火	三彩の里 陶器まつり（4日間）	販売
5	21	水	陶器まつりお疲れ様会	行事
5	29	木	チャレンジデー	行事
6	6・		長崎リハビリテーション学院 サービスラーニング	実習指導
6	9-27	月-金	虹の原特別支援学校（高等部）実習受け入れ 川棚特別支援学校（高等部）実習受け入れ 鶴南特別支援学校（高等部）実習受け入れ	実習指導
6	30-7/11	月-金	長崎ろう学校（高等部）実習受け入れ	実習指導
8	18-9/19	月-金	長崎純心大学社会福祉士実習指導 鎮西学院社会福祉士実習指導	実習指導
8	8	金	納涼祭	行事
8	27	木	もみの木園利用者交流会	行事
8	30	土	花火打ち上げ	行事
9	1	月	防災の日（ビデオ鑑賞・防災食）	行事
9	30-10/11		川棚特別支援学校（高等部）実習受け入れ	実習指導
10	12-13	日-月	三彩の里 彩フェスタ（2日間）	販売
11	10-28	月-金	虹の原特別支援学校（高等部）実習受け入れ	実習指導
11	11-12	火-水	就労継続支援B型利用者旅行（佐賀・熊本）	行事
12	11	木	合同避難訓練	行事
12	19	金	利用者忘年会	行事
12	26	金	餅つき	行事
1	29-2/7		虹の原特別支援学校（高等部）実習受け入れ	実習指導
2	3	月	豆まき	行事
2	7	土	初午祈願	行事
2	24	火	鎮西学院社会福祉士実習指導	実習指導
3	3	火	ひな祭り（イベント食）	イベント食
3	7	土	地域連携推進会議	会議



「三彩の里 陶器まつり」



「陶器まつりお疲れ様会」



「三彩の里利用者自治会 花火大会」



「就労継続支援B型 利用者旅行 宇宙科学館（左）ヤクルト製麺向上見学（右）」



「就労継続支援B型 利用者旅行 菊池グランドホテル(左) 阿蘇トロッコ列車(右)」



「就労継続支援B型 阿蘇草千里」



「ピース文化祭 受賞式」



「ピース文化祭 大村市長賞受賞作品」



「サムコ合同避難訓練」

5. 保健衛生面について

5 類移行した後もコロナウィルス感染対策の他、インフルエンザ等の感染症対策を継続して行い、マスク着用・手洗い・消毒・検温の徹底を行った。

令和7年度 生活介護事業報告

【生活支援面】

1. 個別ニーズに応じた日常生活支援

1)利用者個々に対し必要に応じアセスメントを行い、利用者のニーズに応じた支援計画を立案し計画に沿った支援を行った。

2)各関係機関等と連携し、随時支援状況の評価・検討を実施した。

3)個別の移動状況に応じた支援を行いながら、残存能力の維持に繋がるようリハビリテーションやレクレーションを実施した。

4)利用者それぞれの能力を活かしながら、出来ない部分を補う形での食事介助や排せつ介助、入浴介助、洗濯、居室清掃など自立支援を実施した。

2. 機能回復訓練

1)月1回、理学療法士に来所して頂き、個別訓練プログラムを立てることでそれぞれに適したリハビリテーションを実施した。

3. 介護

1)担当職員が同じレベルで食事介助や排せつ介助、入浴介助が行えるよう、生活支援会議、サービス利用担当者会議、ケア会議など実施し職員間の共通認識を図った。

4. 社会資源の活用

1)季節を感じられる「花見(桜)」「花菖蒲見学」「納涼祭」「忘年会」を実施した。
今年度は2年に1度の利用者旅行の年だったので、佐世保、小浜、長崎の3コースに別れて実施した。

2)月1回、又は2回、送迎による散髪支援を実施した。

3)月2回の注文による買物支援を実施した。

利用者から依頼があり自力での外出が困難な場合は職員同伴で外出での買物支援を実施した。

又、12月より毎週木曜日にセブンイレブンの移動販売を依頼した。

施設内で買物が出来る様になり利用者の楽しみとなっている。



花見



花菖蒲見学食事会



納涼祭



利用者旅行



利用者旅行



利用者忘年会

5. 作業訓練について

生活介護利用者の生産活動はリハビリを主な目的として実施し、作ることの喜びや達成感により作業に対する意欲が高められた。利用者が意欲的に生産活動に取り組める環境を整え、精神面、肉体面の向上に繋がるよう努めた。

【保健衛生面】

1. 日常の健康管理

1) 朝礼や昼礼などで具合が悪い利用者がいないか聞きました。

又、服薬の介助、薬の管理を行い、体調不良時には囑託医やかかりつけの病院に相談し受診しました(受診、薬の受け取り、処方ある場合は服薬管理)居室や医務室での静養、検温や血圧測定を行いました。職員間では各課の担当職員に報告をし、情報交換を行いました。

2) 高血圧で内服治療中の利用者は(19名)(脳疾患後遺症による血圧コントロール9名自分で測定できる利用者には、測定ノートを渡し記入してもらい、通院時に持参して通院箇所との連携を取りました。

3) 糖尿病で内服治療を行われている利用者には、声掛けを行い、服薬支援を行いました。低血糖や高血糖がないか観察を行い、通院時報告をしました。また気分不良時は職員に声かけるように話しました。また間食についてもかかりつけ医に報告しカロリー一面は給食会議で話をしてもらいように委員の支援員に相談しました。利用者は間食についてはなかなか減量が難しいようでした。カロリーについては支援員と連携して曜日を決めストレスが溜まらないように、お菓子を渡しました。

4) 服薬管理について、本人の確認・薬袋の名前の確認・服薬時間の確認を行い、服薬支援を行いました。お薬カレンダーに、セットは現在、看護師2名・夜勤者1名でチェックを行いました。グループホームの利用者は受診の支援、服薬については世話人に依頼し、空袋は次の日に連絡帳と一緒に持ってきてもらいました。

5) 月1回の体重測定を行い、1年で±5Kgの利用者はいませんでした。精神面で食欲が落ちる時はかかりつけ医に相談し指示を受け、早目の受診を行いました。

6) 歯科往診では、治療と健診を受け、必要な利用者にはブラッシングのやり方の指導を行っていただきました。介助が必要な利用者には支援を行いました。全員行う事が難しく、大村市障がい者歯の健康づくりネットで現状をお伝えし、長崎県歯科衛生士や県央保健所の方にも話、今後の取り組みなど話し合いました。毎回ではなく人数を決め、指導することを勧められました。R8年度障害者支援施設歯科保健医療サポート事業で10月29日、入所者を対象に歯の健診を受け、管理者・職員が研修を受ける予定です。入所者全員との事で拒否のある方は本人から医師に伝えていただくこととなっています。

7) 皮膚疾患、眼のアレルギーなどある利用者には、適宜往診と通院を行い、処方された軟膏処置、点眼薬施行、については(指示された回数の塗布・点眼)の支援を行いました。

8) 転倒転落については、車いす自乗の利用者で移動時（車いすからベッド、ベッドから車いす）ブレーキのかけ忘れがあり今後も引き続き注意しなければならなかった。

2. 定期健康診断

1) 入所者、夜勤者は1年に2回の定期健康診断を実施しました。

2) パート、通所者、グループホームの世話人さんは1年に1回定期健康診断を行いました。

3) 35歳以上の職員は協会けんぽの健康診断を1年に1回行いました。

異常が認められた利用者には、嘱託委に相談し再検査を行い、治療が必要な利用者は継続して受診しています。通院されている利用者には、本人許可をとり通院箇所の主治医にも情報の共有をしました。

3. 感染症等の予防対策

1) 熱中症や季節性インフルエンザ、ノロウイルスの感染症への対策では、委員会で、年4回の話し合いを行い、利用者にはイラストを用い、自治会、朝礼・昼礼などで伝えました。また季節性の感染症は、都度利用者には気を付ける事を話しスタッフにはパソコンで勉強会を行いました。

2) インフルエンザワクチンを希望する利用者への対応。接種予約、副反応への対応等を行いました。インフルエンザワクチン接種率は79%でした。

4. 居室衛生管理について

1) 殺虫剤を使い居室の害虫駆除を行いました。適宜、居室や発生しやすい箇所には、駆除剤を設置しました。居室は定期的にチェックを行い、利用者承諾のもと不用品の処分、食物の処分を行った。

通院状況は利用者の障害に伴う重度化や突然の疾病や精神疾患による重度化もあり、年々多くなっている。新たに入所された利用者で1人数件通院されている方も多くなった。

6. 入院状況

R7年度の入院者数は10名

入院記録

年齢 性別	病名	入院日数
56歳 女性	変形性膝関節症	16日間
56歳 女性	変形性膝関節症 術後リハビリ	46日間
18歳 女性	精神	62日間
69歳 男性	大腸ポリープ検査	3日間
18歳 女性	精神	131日後退所
69歳 男性	大腸がん手術	8日間
69歳 男性	大腸がん手術後	3日間
73歳 男性	気管支炎	14日間
59歳 男性	精神	101日間
66歳 男性	イレウス	21日間

令和7年度 施設入所支援事業報告

1. 生活支援について

1) 個別支援サービスの充実

利用者個々に対し必要に応じてアセスメントを行い、サービス管理責任者を主体にケア会議を開き、利用者個々のニーズや希望に応じた支援計画書を作成し計画書に沿った支援を実施した。個別支援計画書の支援期間は最長6ヶ月としてモニタリングを実施し、支援計画の見直しを行った。

2) 相談支援について

必要に応じて個別面談を実施し、生活状況の把握に努めた。また、利用者の担当相談支援事業所と連携し迅速な対応を行った。

相談支援事業所へ、個別支援計画、モニタリング報告書を提出し、情報共有を行った。

2. 介護支援について

利用者の身体状況の変化等に応じ、サービス管理責任者を主体にモニタリングを実施。ケア会議を開き個別に応じた食事介助や入浴、排泄などの介護支援に努めた。

3. 災害（火災・自然災害）及び施設整備について

火災・夜間想定、地震想定での避難訓練を実施した。

実施日：12月11日（火災想定）、2月10日（地震想定）

内容：火災想定では、消防署及びSUMCO TECHXIV様にご協力いただき、

避難訓練、通報訓練、水消火器を用いた消火訓練を実施した。

地震想定では、各作業場から新館食堂への避難、負傷者が出た想定で

応急処置から避難訓練を実施した。

4. 虐待対策について

虐待対策・防止について、職員全員参加の施設内研修を実施した。

5. 苦情解決について

令和7年度の苦情受付は、2例あったが解決済みとなっている。

・居室前での大声や、居室を覗く行動など利用者間トラブルであった。

6. 施設入所者数の現員及び入退所者数について

1) 令和7年4月～令和8年3月の施設入所者数

令和7年4月末日現在 定員40名 現員34名。

令和8年3月末日現在 定員40名 現員36名。

2)令和7年4月～令和8年3月の入退所者数

入所者数 3名、退所者数1名。

3)入所者の2名は、生活介護のサービス利用、1名は、就労継続支援B型のサービス利用
退所者の1名に関しては、ご本人の希望で他の施設へ移動された。

令和7年度 共同生活援助『ぱびるす』事業報告

1. サービス内容について

食事の準備や居室清掃など専属の世話人のもと、家庭的な雰囲気の中で利用者間の交流・親睦を深めた。食事は利用者の喜びに繋がるよう、朝、夕ともに世話人の手作りで用意し、リクエストに応じた食事メニューや、健康状態に合わせた食事メニューの提供を実施した。また、通院時の送迎・買い物等の支援も必要に応じて実施した。

2. 行事について

陶器まつり、彩フェスタ、利用者忘年会、地域清掃活動等の行事に参加し、施設利用者や地域の方々と交流することができた。

3. 職員研修について

施設内では、利用者への支援のあり方についての内部研修を実施し、生活面等のサービス検討について、施設長、管理者、世話人で月1回会議を実施した。

4. 緊急時等における対応

令和7年度中は生活面で大きな問題はなく、体調の急変等見られなかったが、インフルエンザの感染者が12月に1名、1月に1名出たことから治癒するまで施設での隔離対応を行った。今後も、体調の急変等による緊急時には、速やかに管理者に報告すると共に主治医に連絡をとる。

5. 災害対策について（火災・自然災害）

夜間の火災を想定した避難訓練を実施し、火災時の避難行動の確認と意識づけを図った。施設で実施された避難訓練にも、施設の利用者と共にGH利用者也参加した。自然災害は地震想定避難訓練を実施し、自然災害に対する備え等について世話人、利用者と共に意識づけを図った。

6. 虐待対策について

日頃より世話人との電話連絡、最低週1回以上グループホームを訪問し、世話人との情報共有や連携をとっており、グループホームの各居室にも伺って何か変化等がないか、利用者とのコミュニケーションを図るなかで確認を行った。また月1回行っているグループホーム会議のなかで、虐待防止の内部研修を実施した。

7. 苦情解決について

利用者や世話人から生活について聞き取りを行い、グループホームにも苦情解決の対応について掲示を行なっている。利用者間での問題はあったが、その都度の聞き取りを行って早期解決に努めたことから、大きなトラブルもなく仲良く生活を送ることが出来た。